

初台7月4日 フレンツ・ミュラー神父による一日黙想会 テーマ：聖霊（講話1）

みなさん、はじめまして。今日、日本のこの地で皆さんにお目にかかることができ大変幸せです。私のことは、フレンツとかフランシスとか呼んでください。私の名前の保護の聖人フランシスコ・ザビエルは日本で福音宣教を行いました。

私が司祭に叙階されたとき、私の中には世界の各地に行って福音を宣べ伝えたいという望みがありました。今から24年前の今日、7月4日に私は司祭に叙階されました。今回のミッションのために、日本のために、皆さんが祈りで準備をしてくださったことに感謝しています。祈りをもって準備をするということは、非常に大切です。日本にみことばの種が蒔かれるために、みなさんは祈りで耕してくださったのです。神のみことばを伝える司祭のために祈ることはとても大切なことです。

私が日本に来ようとは思ったこともありませんでしたが、神が私を呼んでくださったのでやって来ました。神が呼ばれるなら、道は準備され開かれるので、私たちは出かけて行くことができます。みなさん、一人一人をある使命のために神は呼ばれています。

今朝、心の中に感じたことがあります。これは、誰かを批判するというものではありません。今日来ていらっしゃる皆さんの中には、心の中に疑いを持っている人が何人かいます。信仰に対する疑いではありません。「疑い」というよりはむしろ「不確かさ」あるいは「不安定さ」と言った方がいいでしょうか。

神は今日、この状態に触れたいと思われています。

朝、イメージを見ました。皆さんの中のいく人かが、手術台で傷を縫ってもらっていました。その人たちは、心を開きたいと思っていますが、自分自身ではそれができず苦しんでいます。そういう状態の方々に言います。神は今日、あなた方の鎖を解こうと思われ、ここに呼ばれたのです。

少しお祈りしたいと思います。沈黙で、あるいは異言で祈れる方は小声で祈ってください。

（しばらく皆でそのように祈る。）

皆さんの中には、心の中に怒り、憎しみを持っている方がいます。その人はその状態に苦しんでいます。あなたをご存知の主は、私を通して言われます。「あなたの中にある怒り、憎しみからあなたを解放しよう」。

私はあなた方を知りません。しかし、神は皆さん一人ひとりをよくご存知です。私は普段、皆さんと接触がないので、こういう人間を通して、神は真実をお告げになります。あなた方を知らない私を通して告げられるので、それが神からのものだということが分かるでしょう。

ある方は免疫系の病気にかかっていますが、この人に神は今触れられています。疑わないでください。私は何もできませんが、神はあなたのために癒しを行なってくださいます。

私は日本に来て、毎日とても興味深く、ワクワクしています。

先日、秋田に行きましたが、数年前に洗礼を受けた方と知り合いました。私の国では、そういうことはありません。ルクセンブルグでは、みんな、生まれてすぐに洗礼を受けるのです。皆、自分の意思とは関係なく、洗礼を受けます。洗礼の場で両親は、子供を信仰に導く育て方をすると約束します。私の両親は、約束通りそのように育ててくれましたが、現在では、多くの両親が約束をしますが、実行する親が少なくなっています。

秋田で出会った洗礼を数年前に受けた人たちの話に戻りますが、彼らは心の中に美しい望みを持っていました。皆さんの中にも、少なくとも二十人の方々が、同じ美しい望みをお持ちです。それは、「神に対してもっと心を開きたい」という望みです。

この望みをお持ちの方、手を挙げてください。（二十人ではなく、たくさんの方が手を挙げました。） 主よ、あなたは素晴らしい！ アーメン！

皆さんは、心の中のこの良い望みを神は叶えてくださると思いますか？
叶えてくださると信じますか？

主よ、私たちの心をあなたの聖なる霊で満たしてください。聖霊よ、あなたの力をもって来てください。私たちを新たにしてください。ハレルヤ！

イエスはニコデモに、「新たに生まれなければならない」と言われました。「新たに生まれる可能性がある」とか、「新たに生まれる道もある」とかではなく、「ねばならない」と言われました。「人は新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」と言われたのです。ニコデモはファリサイ派でイスラエルの教師でしたが、神の御国を知りませんでした。神が今、何を行われたいかを理解できませんでした。

神の御国は、今日、今、体験できるのです。
今日、今、神は私たちに何かをなさりたいと思われているのです。

今日、一人の方がアルコール依存症から解放されます。あなたは、悲しみを紛らわすためにお酒を飲みはじめました。お酒を飲むことで、すべてを忘れてしまいたいと思いました。私はその方が誰かを知りませんから、心配しなくていいですよ。もし、後で名乗り出てくださってもいいですが、そうしなくても大丈夫です。強制はしません。しかし、数ヶ月後に、本当に癒されたと思う時が来ます。その時、神は、「今、証しをきなさい」とあなたの心に言われます。そして、あなたのその証しによって、他の人が解放されていきます。

イエスは、皆さんが、今日、今、神の御国を体験して欲しいと思われています。神の力を体験して欲しいと思われているのです。

イエスが来られて説教をなさった時、モーゼや、エリヤ、ダビデについて過去の話がされたのではなく、「神の御国は近づいた」と言われました。

「もし、あなた方がたくさん祈るなら、、、」という条件付きではありませんでした。

日本の皆さんは、ルクセンブルクよりも七時間早く「今日」を体験しますね。実は、私は昨日、ひとつ間違いを犯してしまったのです。

昨日、私はイグナチオ教会に行ったので、上智大学の門のところで写真を撮りました。私はその写真をすぐに私の司教様に携帯の「ウオツアップ」を使って送りました。私の司教、ジャンクロード・オロリッシュ大司教は、以前、上智大学の教授だったので、私が上智大学を訪問した証拠を送ったつもりでした。

ところが、時差を考えるのを忘れていて、ルクセンブルクは早朝の時間帯だったのです。もしかすると、彼を起こしてしまったかもしれません。

日本に来る前に私は大司教に今回のミッションのために祝福を願いました。大司教様は喜びをもって祝福してくださいました。

ルクセンブルク大公国には天皇はいませんが、王様がいます。私は王家の指導司祭として、王様の家族のところで定期的にごミサを捧げています。

前回、王様を訪ねた時、私は「父なる祝福をしてください」と彼に願いました。彼はとても驚いて、「私が司祭を祝福するのですか？」と言われました。「はい、日本のミッションのためにあなたの祝福が必要です」とお願いすると、私の額に十字架のしるしをして、心の中にある言葉で自由な祈りをして祝福してくださいました。私にとって、素晴らしい体験でした。

神は今日働かれます。私たちは上から生まれなければ神の国を見ることができません。ニコデモは、「人は年をとってどうして生まれることができるのでしょうか？ もう一度母の胎内に入って生まれることができるのでしょうか？」と聞き返しました。

私も、「もう一度生まれなければならぬ」と感じていました。私は3年少し前に癌と診断されて、手術をすることになりました。癌だと告知されたことは、特にショックではありませんでしたが、他のことが心にかかってしまいました。手術は成功しましたが、気がかりはなくなりませんでした。

私は、「自分には聖霊が欠けている」と思ったのです。

考えてみてください。私は1976年からカリスマ刷新に関わっているのに、司祭として長い間司牧しているのに、まだ聖霊が足りない状態なのです。

癌だとわかった時、私は、「私には聖霊が必要だ」と思い、聖霊が欠如しているという思いで、私の中は悲しみでいっぱいでした。

「聖霊が必要だ、聖霊が必要だ」と思っていると、ある人が、「あなたの中に聖霊がいらっしゃるじゃないですか」と言いました。もちろん、堅信のときに聖霊を受けていることを知っています。ご聖体を拝領する時、聖霊もいっしょに拝領しているのは知っています。理論は理解していますが、「何かが違う」と思ったのです。

手術の前も後も、「聖霊が足りない」と思っていました。ある時「私は魂を無くしてしまっただ！」と気づきました。

私の魂はいったいどこにあるのでしょうか？

この頃は、私にとって非常に辛い時期でした。30年以上も泣いていなかったのに、この頃から、私はたくさん涙を流し始めました。

この時期に、ある人が私をいろいろなセミナーに連れて行ってくれました。

まず最初に、ドイツで司牧しているインド人の司祭、アントニー神父のところ、次にミオ・バラダのところに行きました。

私はミオの講話をじっくりと聴きたかったのですが、最初の講話を四分の三ほど聴いたところで、ミオが私に告解室に入るようにと言ったのです。私はミオに従いました。

私は司祭としてそれまで数多くの告解を聴いてきましたが、ミオのセミオナーでは、それまで体験したことのない深い、素晴らしい告解を聴くことになったのです。

それ以来、私は何度もミオのセミナーに参加するようになりました。ミオのセミナーに参加できたことは、私にとって大きな祝福です。

私は数多くの告解を聴きますが、私の小教区の人よりも、フランス、ドイツ、ベルギーから告解のためにやって来る人の方が圧倒的に多いのです。

私にとって非常に大切なことは、人が解放されることです。

告解を聴くとき、私は、「主よ、私はここにいます。あなたが私を呼ばれました。あなたが私に贈ってくださったこの人を受け入れます」と主に申し上げています。

主に對する従順、告解を聴くという奉仕を通して、私は新たに生まれることができました。この体験は驚きでした。

主は、私に、「そこにいて待ちなさい」とはおっしゃらず、私が主に奉仕をするとすぐさま聖霊を送ってくださったのです。

私たちは、神が送ってくださった場所で、神がお望みになることを行うことが非常に大切なのです。

イエスは、「あなたは新たに生まれなければならない」と言われます。ですから、「はい、主よ、私は新たに生まれなければなりません。でも、主よ、私にはできません。あなたがやってください」と言いましょう。

皆さんの中の四人の方、あなた方の中から、イエスは人生の苦味を取り除こうとされています。

どうぞ、イエスがなさりたいことができるように、イエスに任せてください。

それは自分のことだと感じる方は、どうぞ今の言葉を受け入れてください。

神は誰も裁かれません。イエスは、「失われていた者を探しに来た」と言われます。私たちは新たに生まれなければなりません。そうしたい、という望みを私たちは持っています。しかし、私たちよりもイエスの方がそれを強く望まれているのです。

私が子供たちの初聖体の準備をする時、子供たちに、イエスがなさった数々の奇跡、…パンを増やしたたこと、病人を癒したこと、水をワインに変えたこと、死者を蘇らせたことなど…について話します。その後で、「これらの奇跡を体験した人たちは、そのあと何を望んだと思う？」と質問すると、「イエスさまにいつもそばにいて欲しいと思った」と答えるのです。

なぜなら、パンがなくなることはないし、病気になれば癒してもらえるし、海が荒れても静めてもらえるし、死んでも生き返らせてもらえるから、と。

子供たちが率直にこのように言えることは素晴らしいことだと思います。

私はこの後、大事な質問をします。

「では、イエスが一番望まれることは何だろう？」

すると子供たちは、「イエスは私たち、僕たちのそばにいたいと思われる」と答えるのです。

その通りです。

私たちがイエスを求めるよりも、ずっと強く、イエスは私たちが切望されているのです。つまり、神のお望みと人間の望みは同じだと言えます。

では、このお互いの望みが実現されるために、何をすればいいのでしょうか？

これが実現されるための王道があります。それは、「ご聖体」です。

「これは私のからだ、これは私の血である」とイエスは言われます。この御身体と御血を私たちは拝領するのです。

とても愛し合っている夫婦が一つになることは素晴らしいことです。しかし、ずっと一つでいることはできません。互いを離さなければなりません。

しかし、イエスと私たちの関係は違います。

エマオに向かう弟子に現れたイエスに対して、弟子たちは「もうすでに日も傾いていますから、私たちと一緒に泊りください」と願いました。

聖書には、『イエスは、彼らとともに泊まるために中に入られた』と記されています。

イエスは私たちとともに留まるためにここに来てくださるのです。

今、皆さんの中の一人の方が、特別な喜びの恵みをいただきました。大きな喜びを心にいただいた方、この恵みを受け入れてください。この喜びはみことばによっていただいたものです。

二週間前のことですが、私は、一つのことをようやく理解しました。

みことばを聴き、私たちの中にみことばを受け入れると、みことばはまるで磁石のように聖霊を引き寄せるのです。これを理解するのに、私は時間を要しました。

イザヤ55章に、『天から雨や雪が降れば、地を潤し、これに生えさせ、芽を出させ、種まく者に種を、食べる者に糧を与えずに天に戻ることがないように、私の口から出る言葉は、私の望むことを行い、私が託した使命を成し遂げずにむなしく私に戻ることはない』と書かれています。

大天使ガブリエルが聖母を訪れ、偉大なメッセージを告げました。『恵まれた方よ。主はあなたとともにおられます。恐れることはない、マリア。あなたは神の恵みを受けている。あなたは身ごもって男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な者となり、いと高き方の子と呼ばれる』。

清く生きているマリアは、『どうしてそのようなことがあり得ましょうか』と答えられました。ガブリエルは「聖霊があなたに臨み、いと高き方の力があなたを覆う。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」と答えます。

ガブリエルは、まず最初に神のみことばを告げ、マリアはそれを受け入れました。みことばを受け入れたので、みことばは人となられたのです。聖霊がみことばを生かすのです。私たちがみことばを受け入れると、聖霊が来て、みことばを生きたものにします。

私は15歳の時、はじめてカリスマ刷新に出会いました。そこでは毎週木曜日に、若者たちが祈りの会に集い、互いを励ましあっていました。私はそこに参加したのです。彼らは祈ることがとても上手でした。私もそういう風に祈りたいと思いました。

彼らはズボンのポケットの片方に財布を、もう片方には小型の新約聖書を入れて持ち歩き、事あるごとに聖書を開いては読んでいました。神についてもっと知りたい、という思いにかられていたのです。私は家に戻って、自分の聖書を開いてみました。私も神についてもっと知りたいと思ったからです。でも、読んでも何も理解できませんでした。みことばに対する渇きがあったのに、何もわからなかったのです。

その頃、司祭が青年たちのために7週間かけて聖霊の満たしの準備をしていました。司祭は、聖霊の満たしを受ける前に彼らに告解をするようにと勧めていました。私も告解しようと思いましたが、15歳の少年の私にとって、罪を告白することはとても恥ずかしいことでした。私は列の一番最後に並んでいましたが、私の一つ前の人が告解室に入ったとき、私も一緒に入りました。普通、こんなことはしませんね。

司祭が私を見ると、私は何も言わず、ただ声をあげて泣き始めました。泣き続ける私を、司祭はただ抱きしめてくれました。もしかすると、司祭はその時祈ってくれたのかもしれませんが。その後、私は告解室を後にしたのですが、心は軽く、幸せな気分でした。それ以来、私は定期的に赦しの秘跡を受けるようになり、過去のことを少しずつ告解できるようになり、罪から自由になりました。その司祭は、私に対して相当の忍耐が必要だったと思います。もしかすると、そのおかげで私も告解に来る人に対して忍耐の賜物をいただいたのかもしれませんが。

聖霊の満たしを受ける青年たちのための準備の7週間が過ぎました。青年たちは祈りと聖書によって7週間準備していましたが、私は何の準備もせず、ただ他の人がもらうものを私も欲しくて、聖霊の満たしを受けました。

だって、私は神の子供なのです。神はご自分の子供たちに良いものをくださいますから。

按手して祈っていただいた時、私は何も感じませんでした。「聖霊の満たし」あるいは『聖霊による洗礼』が何なのか、私は理解していませんでした。

私は7人兄弟の6番目です。父は道路清掃作業員として働き、家族を養っていました。

12人の大家族で広い畑もありましたので、やる事が山ほどあります。子供たちにはそれぞれ充てがわれた仕事がありました。たとえば、兄弟の下の4人は床磨きの仕事、女の子たちは台所仕事と家族全員の靴磨き、といった具合です。

聖霊の満たしの祈りをしていただいたあと、私は「僕も台所仕事しようかな」「靴磨きも手伝おうかな」「ベッドメイキングも自分でしようかな」「庭仕事も手伝おう。草取りをしよう」と思い立ちました。それまで、考えたことすらなかったことを私はやり始めたのです。

私のこのような行動に、まず両親、そして兄弟たちが気づきました。実は、私自身は自分のやっていることに気づいていなかったのです。

私は自然の中を散歩するようになりました。15歳にして、はじめて鳥のさえずる声を聞きました。りんごの木に登って花の香りを嗅いだりし始めました。

一歳違いの一つ上の兄と私は同じ部屋を使っていたのですが、彼は私を怒らせるのに非常に長けていきました。私の方がほんの少し兄よりも背は高かったのですが、兄はがっしりとした体格で力持ちでした。彼は私に殴りかかったり、床に押し付けたりすることがよくあり、私は気を失ってしまったこともありました。

ある時、私を床に押さえつけていた兄が力を抜いた瞬間、私は立ち上がり、部屋を飛び出し、階段を駆け下りました。大急ぎで降りたので、最後の4段は飛び越えてしまったのですが、飛び上がった時に階段の上にある壁に頭をぶつけてしまい、頭から血を流してしまいました。こういうことがよくあり、いつか兄は私を殺すのではないかと思ったほどです。母にとって、このことは心配と悲しみのもとでした。

私の回心の少し前にも同じようなことが起こり、私は部屋を飛び出し、階段を駆け下りました。前回学びましたので、階段は4段ではなく、最後の2段だけ飛び降りました。玄関から飛び出して、玄関のドアを思いっきり閉めました。すると、その勢いでドアのガラスが壊れてしまいました。それほど私の怒りは強かったのです。

ある時は、私は非常に怒って古い豚小屋に閉じこもったことがあります。でも、誰も私を探してくれませんでした。「そのうち、気持ちが収まるさ」と放っておかれたのです。そのことは、私にとってとても悲しく辛いことでした。

しかし、神はいつも私を探してくださっているのです。今ならそのことが私にもわかります。

何の準備もせずに受けた聖霊の満たしの後、兄の挑発に私は乗らなくなりました。怒りがこみ上げるのがなくなったのです。これは、聖霊の力によるものです。

この力を、みなさん一人ひとりに神は与えたいと思われています。

こうした体験の後も、私はときどき隠れてしまうことがありました。すると、神は人を送って私を探し出してくださったのです。

そして、今、自分の中に隠れて閉じこもっている人を見つけ出すために、神は私を道具として使ってくださいています。

神は、絶えずあなたを探し求めていらっしゃいます。人間が誰一人としてあなたを求めなくとも、探さなくとも、神はあなたを探し、見つけようとされています。

ある人を道具として使い、あなたを見つけ出されます。

それと同様、あなたを道具として他の誰かを探しだそうとされています。あなたは、イエスの御名によってその人を探し、見つけるのです。

さて、ここでしばらく賛美をしましょう。

-----講話第1部終了